

許可を求める表現

——～タインデスケドをめぐって——

岡野喜美子

キーワード

話しことば, 許可要求表現, 間接的な表現, 願望表現形式

はじめに

日本語の話しことばは、とくに要求表現において直接的な表現形式をとらず間接的な遠回しの言い方をすることが多いが、これら間接的、婉曲的な表現を多用することは日本語の話しことばの特色のひとつともなっている。話しことばの談話の実態の観察と研究が進むとともに、また自然な日本語への志向が高まるとともに、徐々にではあるが、日本語教育の教科書・教材にも直接的な表現形式だけでなく、同じ機能をもつ間接的な表現が取り入れられるようになってきた¹⁾。さらに、もっと積極的に、話しことばにおける婉曲的な言い回しなど日本語の特徴的な面の学習に重点を置いたものも著されている²⁾。話しことばの教育がコミュニケーション重視の方向に向かいつつある現在、日本語の話しことばの教育、教材においてこの傾向はさらに強まるものと思われる。

日本語においては一般に、間接的、婉曲的な表現は直接的な表現形式に

1) 本稿で扱った許可要求表現に関して言えば、「ロールプレイで学ぶ会話(2)」(日本語教授法研究会)には、許可の求め方のひとつとして～タインデスケドが挙げられているが、使い方には触れられていない。なお、現在、国際部で作成中の「許可を求める」課には「～(タイ)ンデスケド, イイデスカ」の形も入れる予定である。ちなみに禁止表現は別の課に入ることになっている。

2) 参考文献 1 参照。

よる表現より聞き手への心づかいが感じられ好ましいとされている。しかし、間接性にはあいまい性がつきまとうものであり、これは外国人学習者にとってなかなかとらえにくい日本語の話しことばの一面であることは確かである³⁾。ある表現意図を伝えるのにどういった直接的でない表現形式があるのか。どういった表現形式をとれば意図が正確に聞き手に伝わり、いい印象を与えるのか、あるいは、反対に悪い印象を与えることになるのか。間接的な表現であれば好ましい表現と言えるのか。また、直接表現をとらない場合誤解が生じるとすればどのような場合かなど、指導の基準となる研究が今後いっそうなされなければならないと思う。

本稿は、上に述べたような日本語の間接的な表現を今後のテーマとして取り上げていく手始めとして、「許可を求める」という表現意図をもつ直接的な表現形式～テモイデスカと間接的な表現形式～タインデスケド、それらの述部の条件などを中心に考察するものである。以下、間接的表現の定義、～タインデスケド以外の表現などにも触れながら述べていくことにする。

I. 間接的な表現

ここまでですでに「間接的な表現」「婉曲的な表現」ということばを使ったが、まずそれらについて書かれたものを見てみる必要がある。以下、話法上の「間接」「婉曲」に触れたものをいくつか引用する。

1) (間接的な命令・依頼のかたちについて)・・・その機能としては、間接的に依頼や命令を表わす役割を果すものである。(参考文献2, II 話しことば, 上野田鶴子 命令と依頼)

2) たとえば、誰かが「暑いな」と言ったとする。・・・「だから、クーラーのスイッチを入れてくれ」とか「だから、窓を開けてほしい」と要求して

3) 間接表現にたいする学習者の意識および反応に具体的に触れたものに水谷(参考文献6)がある。ここではアメリカ人学習者が日本語の婉曲的な言い回しをどう受け止めるか——英語との比較においてあまり好ましくない表現としていること——が述べられている。

いるのかもしれない。...直接表現で伝えることもできるが、人間関係への配慮によって間接表現を取っているのである。(参考文献3, 第4章, 3. 意図表現, [2]意図表現のストラテジー2)

3) 話しことば...要求・希望・依頼・禁止・注意・勧誘・意見などの提示をそれとあからさまに示さず、遠回しにそそのかしたり仕向けたり思いとどまらせたりする婉曲的な言い方を多用する。その結果、回答要求や行動要求の表現も、表現形態として必ずしもそれに見合った表現文型を取っているとは限らないので注意したい。(参考文献4, 森田 第3章, 2. ウ婉曲的な表現)

4) 日本語で婉曲話法と言うと直接言うのを避けて間接的に言うので丁寧な言い方すなわち婉曲話法だと考えられている。indirect というよりもむしろ polite speech という方が適当な場合が多い。...「——して下さい」と言うよりは「——していただけますか」...と言う方が丁寧である。(参考文献3, 第7章, 4. 婉曲話法の[2] 日本語の婉曲表現1)

上記の引用から分かることは、間接表現(間接的な表現, 婉曲表現)は直接表現以外の同じ機能をもつ表現であること、要求表現などに多く現われること、遠回しに言う言い方であること、したがって丁寧であることなどである。これらの間接表現の特色にも注目しながら以下「許可を求める表現」を見ていくことにする。本稿の III において、上の引用などがない「あいまい」という語をしばしば使用しているが、これは聞き手が受け止める意図が話し手の意図した許可要求だけでなく、依頼でもありうるようなものについて使ったのであって、否定的な意味で使っているわけではないことを断っておく。

II. 許可を求める表現と形式

話しことばは、その会話の行われる場面(場所, 改まり度, 状況, その他), 話し手・聞き手の関係(親疎, 上下, 利害, その他)などのほか、音調, ジェスチャーのような言語外の要素も加わって成立するものである。

このため、その姿はとらえにくく研究も指導もなかなか難しい。ここではあえて一つの試みとして、話し手を外国人学生、会話の場所も教室その他に限定し、その限定したなかで具体的に許可要求表現をみていくことにする⁴⁾。

1. 許可要求表現と回答表現

ほとんどすべての初級日本語教科書で「許可を求める」文型～テモイイデスカが扱われているが、「禁止」を表す～テハイケマセンとのセットになっていることが多い。また、ほとんどの場合、述部(～の部分)が動作だけでなく状態性のもの(たとえば、「高くてもいいですか」など)も同時に扱われている。

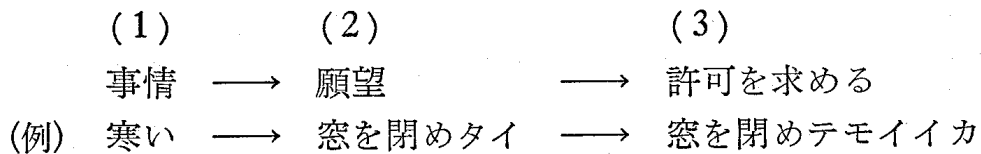
本稿で扱う「許可を求める表現」は、1) 話し手の行為に関して聞き手の個人的な許可を求めるもの、に限り、2) 禁止事項かどうかを問い合わせる表現「(この場所は)たばこを吸ってもいい(ん)ですか」のようなものは対象にしない。1) と 2) では下にみるように回答表現がかなり異なるからである。たとえば、撮影禁止かどうかを聞く「あ、う、写真を撮ってもいい(ん)ですか」にたいしては、「ええ、(撮っても)いい(ん)です(よ)」「ええ、どうぞ」「いえ、いけないんです(よ)」「いえ、撮れません」「いえ、撮らないでください」などがあり、否定的な答えに直接的な禁止表現～テハイケナイを使うことがある。一方、相手に許可を求める「あ、う、(あなたの)写真を撮ってもいいですか」にたいする肯定的な答えは「ええ、どうぞ」「ええ、いいですけど」など 2) とほとんど同じとしても、否定的な回答は「あ、ちょっと…」「写真は苦手なんで…」「あ、撮らないでください」などになり、禁止表現～テハイケナイはふつうは使わない。したがって、別の談話の型とみなして 1) のみ扱った。

4) 外国人学生を取り上げたのは三つの理由からである。ひとつは、ありとあらゆる場面、ありとあらゆる話し手・聞き手の関係に触れることは不可能であること、話し手を年齢的にも社会的にも一定の位置にあるものに限定することで待遇などの不確定要素をなるべく小さくすること、もうひとつは、研究の結果が直接、間接に日本語教育の実際場で役立つよう考えたためである。

2. 許可を求める表現

日本語には依頼表現のように非常に種類の多いものもあるが、許可を求める直接表現形式は一種と言ってよい。ヨロシイデスカ、カマイマセンカ、イイデショウカやイイ？ など、語彙や丁寧度を変えることはあっても基本的には～テモイイデスカの文形式をとる。

しかし、先に述べたように「許可を求める」という表現意図はこの～テモイイデスカという形式だけでしか表せないわけではない。「～たいんですけど」という願望表現形式が「許可を求める」表現として間接的な形で現われることがある。これは、話し手が自己の行為について聞き手に許可を求めるという表現行動をとる前提に、その行為への願望、欲求があるためである。話し手は自己の願望実現のために、それによって迷惑をこうむる(かもしれない)相手、すなわち聞き手から許可を得ようとするわけである。さらに、その願望の背景をさぐれば、ふつう、願望を起こす何らかの事情 = 理由が存在する。これを図式化すると下のようになる。



上の図式の (3) の表現形式のほかに、(2) の願望を述べること、さらに (1) の事情を述べることによっても許可を求めることが可能であるが、これらは下に見るように～ケド(あるいは～ガ)をともなって複文の形でも単独でも現れる。次の III では、これらのうち (2) が許可を求めるという機能をどう担うかを中心に (3) とからめながらみていくことにする。～タインデスケドに焦点を絞るため、まず、次の a, b, c の3種を考察の対象とし、ついで、事情を述べることによる間接表現(下の (1) の d ~ンデスケド)にはあとでまとめて触れることにする。

- a 直接的に許可を求める～テモイイデスカの文
- b 願望する事柄(動詞)と許可を求める事柄(動詞)とがまったく同じである表現。すなわち～タインデスケド、(～テモ)イイデスカの述語

(～の部分)が同じもの

- c b の, 願望表現形式の部分だけからなる文. ～タインデスケドで文を終わるもの

(1)	(2)	(3)
		a ～テモイイデスカ
	b ～タインデスケド,	(～テモ)イイデスカ
	c ～タインデスケド.	
～ンデスケド, d ～ンデスケド.		～テモイイデスカ

III. 場面, 聞き手と許可要求

話しことばで, ある表現が適切かどうかをみるのに, その使用場面および話し手・聞き手の関係を見無視することはできない. 現実に存在するさまざまな場面, 人間関係のなかの実例をみるのもよいが, この稿では許可を求める人・求められる人と「場」を特定し, 許可を得ようとする事柄を上記の a, b, c のそれぞれについてみていくことにする. 外国人学生を話し手に, 聞き手を授業中の教室, ホームステイ先, 訪問先での上位の人とする. また, 一般的な場では見知らぬ人を聞き手とする.

1. 教室で学生が教師に許可を求める

授業中の教室というのは教師の権限が大きく発揮される場である. 実際に学生がそこまでするかどうかは別にして, 通常の教室活動以外の行為についてはすべて教師の許可を得るのが授業中の教室の特色と言えるであろう.

以下, < > 内は具体的に場・状況を説明している. a, b, c の文頭の×印は表現として不適切なものに, ? は「あいまいさ」を宿し許可要求表

現と断定できないもの、つまり、ほかの表現意図(たとえば、依頼)ももちうるもの、言い換えれば、話し手が許可を求めたつもりでも状況などによっては聞き手は何か頼まれたと受け取る可能性のあるものなどにつけた。

1) <読解問題やテストを前にして>

a あのう、辞書使ってもいいですか。

b あのう、辞書使いたいんですけど、(使っても)いいですか。

c ?あのう、辞書使いたいんですけど。

イデスカを使うことで、a、bとも許可を求めていることがはっきりしている。が、aよりbのほうが、～タインデスケドという自分の気持ちを前置きの述べる表現から入り、許可要求を持ち出すという過程を踏むため好ましい印象を与えるようである。cはふつう、bのように使用許可を求めていると解釈してよいであろう。しかし、その場に話し手の辞書が見える、見えない、あるいは話し手が辞書を所持している、していないといった状況が話し手の意図を明確にするであろうが、状況によっては、聞き手に暗に、辞書を使いたいんだが持っていないと言っているとの解釈も成り立つ。そのため、聞き手である教師が「ええ、いいですよ」とか「どうぞ」のかわりに「持っていないんですか」あるいは「あ、(わたしのを)貸してあげますよ」などと応じる可能性はある。

2) <何か説明したいが、日本語で十分説明できない>

a あのう、英語で話してもいいですか。

b あのう、英語で話したいんですけど、(英語で話しても)いいですか。

c あのう、英語で話したいんですけど。

cも許可要求表現である。この事例では、1)の辞書のような「だれかに所属するもの」が関係しない。さらに「日本語」ではなく「英語」で話したいという許可の焦点が行為「話す」ではなく「英語」にあるため他の表現意図は入り込まず、cはあいまいさをもたないということである。

3) <宿題を忘れてきたか、まだ仕上げていない>

a あのう、宿題あした出してもいいですか。

b あのう、宿題あした出したいんですけど、(あした出しても)いいですか。

c あのう、宿題あした出したいんですけど。

c も許可要求表現である。c がはっきり許可を求めていると分かるのは、2)と同様、「あした」に焦点があるためであろう。

4) <教師の話しの途中で>

a あのう、質問してもいいですか。

b あのう、質問したいんですけど、(質問しても)いいですか。

c あのう、質問したいんですけど。

c も許可要求表現である。「質問する」というのは単純明快な行為であり、それ以外の意味や状況を引き込まない。「質問」自体は授業活動の一つであるから、許可を得るのは行為そのものよりもタイミング的に、つまり「今」許されるかどうかを聞くためとみていいのではないだろうか。なお、b, c の「質問したいんですけど」よりは「質問があるんですけど」という事情を述べる言い方のほうがより一般的で、好ましい表現と言えそうである。このような事情を述べる言い方は、願望表現より婉曲的であり、しかも、「質問がある」には許可要求以外の機能が考えられないという点で、より適切な表現であると言えるのではないか。

5) <トイレへ行きたくなって>

a あのう、トイレへ行ってもいいですか。

b あのう、トイレへ行きたいんですけど、(行っても)いいですか。

c あのう、トイレへ行きたいんですけど。

c も許可要求表現である。ただし、教室という場であるから、c の表現を、座をはずす許可を求めているものと聞き手は受け止めるのであって、どこかのビルの中で見知らぬ人に言うとしたらこれは場所を聞いていると解釈される表現である。

6) <教科書をロッカーなどに置いてきて>

- a あのう、教科書取りに行ってもいいですか。
- b あのう、教科書取りに行きたいんですけど、(取りに行っても)いいですか。
- c あのう、教科書取りに行きたいんですけど。

a, b, c ともに許可要求表現である。a より b のほうが発話として唐突さがなく、好ましいようである。c にあいまいさがないのは、この教科書は話し手のものであり、1) と違って教室を離れることについてのみ許可を求めていることが明白だからである。

7) 〈エアコンのない教室が暑い〉

- a あのう、窓開けてもいいですか。
- b あのう、窓開けたいんですけど、(開けても)いいですか。
- c ?あのう、窓開けたいんですけど。

この事例の c は、許可要求の表現意図だけをもつとは言えない。もし話し手が窓に近ければ、あるいはある動作をとるなれば許可を求めるだけの表現と受け取れる。しかし、聞き手と話し手の位置——窓からの距離——によっては窓を開けてほしいと要求していると聞き手はとるかもしれない。こうした位置関係などによっては、c は b と同じ願望表現形式をとりながら、自分の行為ではなく相手にたいして行為(窓を開けること)を要求する機能も帯びることになることが分かる。もし、許可を求めることをより遠慮したつもりで、a あるいは b の代わりに c の表現を使うとしたら、かえって要求的になりぶしつけな印象を相手に与えることになる。類似の事例には「電気をつけてもいいですか」などがある。

8) 〈早退しようとして〉

- a あのう、きょう早く帰ってもいいですか。
- b あのう、きょう早く帰りたいんですけど、(早く帰っても)いいですか。
- c ?あのう、きょう早く帰りたいんですけど。

「早く帰りたい」という語は、大学生の表現として許容できるかどうか

か異論があるであろう。(その点、「早退する」を使えば問題はなくなるが語彙的には難しい。)また、「帰る」はその場からいなくなるという意味であり、より遠慮がちに言う必要があるのかもしれない。そのためか「帰らせていただく」のような表現、あるいは「きょう病院へ行かなければならないんですけど」のように事情を述べるほうがいいようである。cも許可を求めているともとれるが、早退することを前提にして翌日の宿題のことやその日もらはずのプリントのことを聞いているともとれるなど、あいまいである。

2. ホームステイ先で留学生が「親」に許可を求める

ホームステイ先というのは留学生が日本人の家族と生活をともにする場である。特色は、自分のうちと違ってそこにあるほとんどの物が「日本人の家族」の物であること、しかし、特定の物、設備についてはその使用が当然許されていることなどである。これらが、自宅や単なる訪問先と異なる点である⁵⁾。このような場での事例についてみる。

1) 〈家族の部屋などの前で〉

- a あもう、入ってもいいですか。
- b ×あもう、入りたいんですけど、(入っても)いいですか。
- c ×あもう、入りたいんですけど。

許可を得るといふ話し手の意図は a でしか果たせない。b, c は礼儀上不適切な表現となる。話し手の入りたい部屋が聞き手のものであり、そこに入ることを願望表現として言うことは積極的に相手の領域を侵す、つまり、侵入することになるからである。a は、声をかけて気軽に入れる部屋なら「入ってもいいですか」は「入りますよ」を間接的に言っているとも

5) 教室、訪問先、一般的な場、その他ここで取り上げなかった事務所、図書館などに比べ、学生にとって「生活の場」での人間関係のとらえ方とそこでの適切な表現の選択はもっとも困難をとまなうと思う。そのなかでも、ホームステイという形で日本人と生活をともにする場合、家によって学生のことばづかいを「自分の子供並み」でよしとするもの、きびしくけじめを求めるものなどさまざまである。これについて国際部で行った調査結果はいずれ発表したいと思うが、本稿では「デス・マス体でやや遠慮がちに話す」例を挙げた。

とれ、説明なしでもよいかもしいれないが、入りたい理由「そこに自分の物があるんですけど」などと言ってから許可を得るほうがいっそうやわらいだ表現となろう。

2) 〈友達を家に連れてくる〉

a あのう、友達を連れてきてもいいですか。

b あのう、友達を連れてきたいんですけど、(連れてきてても)いいですか。

c あのう、友達を連れてきたいんですけど。

c も許可要求表現である。上の 1) と違って、b, c の願望表現形式が聞き手の家に連れてくるのであっても許容されるのは、家族の一員としての当然の行為の範囲内だからであろうか、話し手の領域となっている「自室へ」が前提だからであろうか。

3) 〈暑い〉「窓を開ける」については教室の場面と同じ表現形式をとる。

4) 〈そろそろ風呂に入りたい〉

a あのう、お風呂に入ってもいいですか。

b あのう、お風呂に入りたいんですけど、(入っても)いいですか。

c ?あのう、お風呂に入りたいんですけど。

c は風呂が用意されている状況であれば時間的な都合、たとえば、今入っていいかどうかを聞いているが、さもないければ、用意できているかどうかを聞く質問とも用意してほしいという間接的な依頼ともとれよう。

5) 〈冷蔵庫の中の食べ物を指さしながら〉

a あのう、これ食べてもいいですか。

b ×あのう、これ食べたいんですけど、(食べても)いいですか。

c ×あのう、これ食べたいんですけど。

b, c は礼儀上不適切な表現である。これは 1) の「入る」ケースと同様、聞き手に属する領域、物にたいする願望をあらわに述べているからである。また、「食べたい」という表現があらわすぎるためもあるであろう。

(次の事例 6) 参照)

6) <食事の用意された食卓で>

- a あもう、先に食べてもいいですか。
- b ×あもう、先に食べたいんですけど、(食べても)いいですか。
- c ×あもう、先に食べたいんですけど。

同じ食べる行為であっても、5)より6)のcの～タインデスケドのほうが許容度が高いように思えるのは「先に始める」ことについて聞いているためであろうか。5)のa, 6)のa, bでは「いただく」のような語を使用すれば適切な表現となろう。

7) <静かな夜、家族に音を気兼ねして>

- a あもう、音楽聴いてもいいですか。
- b あもう、音楽聴きたいんですけど、(聴いても)いいですか。
- c ?あもう、音楽聴きたいんですけど。

cは音で迷惑をかけるかもしれないので許可を求めているともいえる。ただし、自分のラジカセなりテープなりがあるという状況設定がなければ、貸してほしいという依頼表現ともとれ、あいまいである。

8) <見たい番組があって>

- a あもう、テレビ見てもいいですか。
- b あもう、テレビ見たいんですけど、(見ても)いいですか。
- c あもう、テレビ見たいんですけど。

7)のように深夜の音の問題などでなければ、cも間接的な言い方で使用許可を求めていると言ってよい。

3. 訪問先でそのうちの人に許可を求める

留学生が客として訪問した家で許可を求めることは教室や生活の場に比べそれほど一般的なわけではないが、いくつかの例をみる。

1) <部屋が暑い>

- a あもう、ちょっと窓開けてもいいですか。
- b ×あもう、ちょっと窓開けたいんですけど、(開けても)いいですか。

c ×あのう、ちょっと窓開けたいんですけど。

客として聞き手の家にいるという立場からは、b, c のように聞き手の所有になるものの状態を変えたいという願望表現は望ましくないようである。話し手と訪問先の人である聞き手の間の上下関係や親疎によって許容度は変わるであろうが、デス・マスで話す関係では一般に不適切とみてよいであろう。b, c の願望表現ではなく事情を述べる間接表現、たとえば「あのう、暑いんですけど」もぶしつけである(IV. まとめの C 参照)。こういう場合、実際のやりとりとしては「あのう、ちょっと窓開けてもいいですか」「あ、暑いですか」「ええ、ちょっと…」のように、理由を話し手が補足したり聞き手が補足したりするのが普通であろう。理由や願望に触れずに直接的に許可をあおぐほうがいい例、と言ってよいであろうか。

2) 〈たばこを吸いたくなって〉

a あのう、たばこ吸ってもいいですか。

b あのう、たばこ吸いたいんですけど、(吸っても)いいですか。

c ?あのう、たばこ吸いたいんですけど。

c は、そこに灰皿があるかないかという状況によって許可を求める表現とも灰皿を求める依頼表現とも受け取れる。

3) 〈トイレへ行きたい〉

a あのう、トイレ借りてもいいですか⁶⁾。

b あのう、トイレ借りたいんですけど、(借りても)いいですか。

c あのう、トイレ借りたいんですけど。

6) III の 1, 2, 4 の場で文例に入れなかったものに聞き手のものを「借りる」行為がある。「借りる」という語で注意すべきは、日本語の「借りる」には「純粋に物品を借り出す」意味と「物品、設備などの借用、つまり使用」の意味とがあることである。前者の意味で使われる場合は許可要求表現よりは対応語「貸す」を使った依頼表現のほうが適切である。金銭の場合は許可要求表現はまったく不適切となる。後者の「使用」の場合は「借りる」を使った許可要求表現も「貸す」を使った依頼表現も使えるようである。

(例) ×お金借りてもいいですか。 ○お金貸してもらえませんか。
△本借りてもいいですか。 ○本貸してもらえませんか。
○台所借りてもいいですか。 ○台所貸してもらえませんか。

社会人ではない大学生なら a, b ともに使っておかしくないであろうが、実際には、あるいは、より適切な表現としては、許可を求める表現よりは「あのう、トイレお借りします」「あのう、トイレどこでしょうか」「あのう、トイレ貸してもらえますか」「あのう、トイレ…」などのほうが頻度が高いようである。c も「トイレへ行きたい」ということを間接的に言っているようである。つまり、訪問先でトイレへ行くについては使用許可が必要なわけではなく、「わたしはトイレへ行きたい」「トイレはどこか」ということを間接的に伝えるために許可要求表現を含むさまざまな表現形式を使うということであろうか。

4) 〈電話を借りたい〉

- a あのう、電話借りてもいいですか。
- b あのう、電話借りたいんですけど、(借りても)いいですか。
- c ?あのう、電話借りたいんですけど。

a, b ともに許可要求表現である。c は使用許可を求めているとも「貸してほしい」と依頼しているともとれるが、許可表現を使うよりは依頼表現のほうが丁寧である⁶⁾。上の 3) との違いは話し手が電話を当然借りられるものとは思わず、純粹に許可を求めたり依頼したりすることであろう。

4. 一般的な場で見知らぬ人に許可を求める

電車の中、映画館などで見知らぬ人に許可を求める例をみる。

1) 〈電車の中が暑い〉

- a あのう、窓開けてもいいですか。
- b あのう、窓開けたいんですけど、(開けても)いいですか。
- c ?あのう、窓開けたいんですけど。

c はふつうは許可を求める表現として通用するであろう。2の 7) と異なり聞き手に属さないこのような場では表現的に問題はない。ただ窓からの距離など状況によっては「開けるのを手伝ってほしい」という依頼表現ともとれる。

2) 〈隣席の人に〉

- a あのを、たばこ吸ってもいいですか。
- b あのを、たばこ吸いたいんですけど、(吸っても)いいですか。
- c ×?あのを、たばこ吸いたいんですけど。

c の表現は、たばこをねだられたなどと聞き手に誤解されることがないよう、こういう場では使わないほうがいいのではないだろうか。

3) 〈空席の隣にいる人に〉

- a あのを、ここ座ってもいいですか。
- b ×あのを、ここ座りたいんですけど、(座っても)いいですか。
- c ×あのを、ここ座りたいんですけど。

b, c の願望形式が不適切となるのは、話し手がその空席を聞き手に属するもの(聞き手の連れの席)かもしれないとみなしているためである。相手の領域にあるものについて願望表現を使うことは2の1), 5), 3の1)と同様適当でない。

IV. まとめ

以上、許可の求め方を直接表現と間接表現形式の2面からみてきた。限られた場面と人間関係のもとに使われる許可要求表現の事例であり、数は限定されているが、IIIで考察した結果を次のように、A, B, C, Dにまとめた。一部、使用上の留意点にも触れた。Cにおいては、いわゆる事情を述べる間接的な表現を取り上げた。

A 表現形式について

1) 許可要求の直接表現 a ~ テモイイデスカが使われる条件

a の表現形式は自己の行為について許可を求めるとき、教室ほか III で取り上げたすべての場面で、ほとんどの行為・動詞に使える。

ただし、行為の「内容」によっては許可を求める表現をとらず、その他の表現——依頼表現——をとる場合があるので注意する必要がある。「貸し借り」がその典型的な例である⁶⁾。同じ「貸し借り」であっても(1)

依頼表現と許可要求表現のどちらも可能である場合と (2) 許可要求表現を使わず依頼表現を使用する場合とがある。気軽に借りられる物を借りる場合や「使用する」という意味で「借りる」を使う場合は (1) である。したがって、「このペン」や「台所」、「電話」ならよい。しかし、高価な物や借りることで相手に大きな迷惑をかける貸し借りの場合は (2) となり、「借りてもいいですか」は適切な表現ではなくなる。一般的に言って一定の話し手・聞き手の間では借りることで聞き手に及ぼす影響(迷惑度)が高くなるほど依頼表現を選ぶようである⁷⁾。

2) b ~タインデスケド, (~テモ)イイデスカが使われる条件

ほとんどの場合, b は a の言い換えとして成立する。また, a が単刀直入に本題に入るのに比べ, b は, 願望表現部分が一つの「前置き」のように働き, a より唐突さのない, やわらいだ表現となることが多いようである。

ただし, ~タイが欲求を述べる表現形式であるため, 願望表現の形をとっていい事柄には制約があるので注意する必要がある。使えない例は 2 の 1), 5), 6), 3 の 1), 4 の 3), などであるが, これについてはさらに次の 3) でも述べる。

3) 独立の表現 c ~タインデスケド. が使われる条件

独立の許可要求表現として使われる「~タインデスケド.」は, 聞き手にすぐに行為の是非の返答を迫る~テモイイデスカより間接的でためらいがちな表現であることがある。しかし, 上の 2) と同様, 述部の行為や行為の対象物などについて強い制約があるのでその使用については十分注意しなければならない。つまり, 聞き手に所属する「もの」や領域を侵すおそれのある場合(「個室に入る」「聞き手の物を食べる」「隣に座る」など)はこの表現~タインデスケドは使えない。使った場合は非常

7) 注 6 でも, また III の事例でも触れたが, 依頼表現と許可要求表現とは切り離せない関係にある。日本語, 英語の「依頼」と「許可を求める」については鶴田他(参考文献 6)に詳しい。

に礼を失した言語行動であるとみなされよう。～タイムデスクドが独立で許可要求表現となりやすいのは、教室で教師に許可を求める場合（「質問する」「トイレに行く」「教科書を取りに行く」など）である。授業中の教室という「場」の特殊性からくるのであろうか。また、「あした出してもいいですか」などのように「(出すのは)あしたでもいいですか」と置き換えられる場合の「～タイムデスクド。」は許可要求表現になる。その他の場合は、状況次第で依頼表現，許可要求表現，所在を聞く表現などのいずれかになり，表現意図は言語表現だけではあいまいとなり，言語外の助けを必要とするようになる。

B 願望表現形式と聞き手の迷惑度について

人が聞き手に許可を求めるというのは，聞き手にたいして「わたしがあつてをすることによってあなたは迷惑を受けるであろうが，自分はそうしたい。許してくれるか」と聞くことである。聞き手が受ける(であろう)迷惑の度合いおよび迷惑をもたらす(であろう)事柄について次のような傾向がみられた。

- 1) 聞き手に属するものや施設に関して話し手が行う行為が聞き手に与える迷惑度は高い。したがって、「～タイムデスクド」の使用は b であっても c であっても避ける。
- 2) 聞き手の所有物でなくても，そのものと聞き手・話し手の位置関係＝距離によっては聞き手をわずらわせる可能性が高くなり，迷惑度が高くなる。したがって，b はよいが，c「～タイムデスクド。」の使用は避けたほうがよい。
- 3) 聞き手に属するもの，あるいは施設であっても，話し手の使用が当然予想され使用の権利があるような場合，迷惑度は低くなり，c「～タイムデスクド。」の許容度は高くなる。
- 4) 話し手が自分の行為について時宜を得ているかどうか，「今」いいかどうかなどを聞いたり，座をはずすことについて許可を求めるような場合，聞き手の受ける迷惑度は低い。したがって，許可を求める表現

として c「～タインデスケド。」も使用することができる。

C 事情を述べる～ンデスケドについて

すでに触れたように、～タインデスケドよりいっそう間接的であると思われる表現に～ンデスケド (II の図中 (1) の d に当たる) がある。b, c の表現をみていくなかで願望表現形式～タインデスケドより願望の背景となる事情を述べるほうがいい場合がいくつかみられた。ここでは III で扱ったすべての事例について、d の表現例をみることにする。?印は狭義の表現意図(許可要求)が必ずしも特定できなくなり他の表現意図(多くは依頼)ともとれるもの、——印は該当する「事情」が特定できないと思われるものに、×印は不適切な表現につけた。

1. 教室場面で

- 1) ?あもう、分からないことばがあるんですけど。(辞書を使いたい)
- 2) ?あもう、日本語じゃ上手に言えないんですけど。(英語で説明したい)
- 3) ?あもう、宿題、きょう持ってくるのを忘れたんですけど。(宿題をあした出したい)
- 4) あもう、質問があるんですけど。(質問したい)
- 5) ——(トイレへ行きたい)
- 6) ?あもう、教科書、ロッカーに置いてきてしまったんですけど。(教科書を取りに行きたい)
- 7) ×?あもう、ちょっと暑いんですけど。(窓を開けたい)
- 8) ?あもう、きょう病院へ行かなくてはいけないんですけど。(早退したい)

2. ホームステイ先で

- 1) ?あもう、中にわたしの本があるんですけど。(個室などに入りたい)
- 2) あもう、部屋で友達と勉強したいんですけど。(友達を連れてきたい)

- 3) ×?あもう、ちょっと暑いんですけど。(窓を開けたい)
- 4) ——(そろそろ風呂に入りたい)
- 5) ?あもう、お昼食べてないんですけど。(ある食べ物を食べたい)
- 6) ?あもう、きょう早く出かけたいたんですけど。(食事を先に食べ始めたい)
- 7) ——(夜中、音楽を聴きたい)
- 8) あもう、見たい番組があるんですけど。(テレビを見たい)

3. 訪問先で

- 1) ×あもう、ちょっと暑いんですけど。(窓を開けたい)
- 2) ——(たばこを吸いたい)
- 3) ?あもう、ちょっと家に電話したいんですけど。(電話を借りたい)
- 4) ——(トイレを借りたい)

4. 一般的な場面で

- 1) ——(窓を開けたい)
- 2) ——(たばこを吸いたい)
- 3) ——(空いた座席に座りたい)

?印がついたものは表現意図があいまいであるが、話し手にとっては～タインデスケドのような「動詞の制約」がないぶん、使いいいかもしれない。×印は「暑いんですけど」だけについての。「暑い」という語がもともと否定的な意をもち、～ンデスケドとともに使った場合、許可要求よりは不満に基づく相手への強い行動要求の表現となるからであろうか。「暑い」という語を使うなら、「暑いですね」と相手に同意を求めることで会話を始める婉曲的な表現方法をとるのが普通であろう。行きずりの人間関係(4)では事情を述べるような事例は見つからなかった。

D 場面による特色について

ここまでのまとめに基づいて、直接的な許可要求表現を除き、場面による違いを下のような表で見てみた。事例は多くないが一応の傾向は見られたと思う。数字は事例数を、○は許可要求表現、?はあいまいさを有する表

現, ×は不適切な表現, ーは該当表現なしを表す.

場面	表現 適否 など	b ~タイムデ スケド, (~テモ) イイデスカ			c ~タイムデス ケド.			d ~ンデスケド.			
		○	?	×	○	?	×	○	?	×	ー
1 教 室		8	0	0	5	3	0	1	5	1	1
2 ホームステイ		5	0	3	2	3	3	2	3	1	2
3 訪 問 先		3	0	1	0	3	1	0	1	1	2
4 一般的な場		2	0	1	0	1	2	0	0	0	3

1の教室場面では, ホームステイ先や社交的場面である訪問先にくらべ, 表現選択上の制約が少ないことを数字は示している. そのことから, 授業中の学生は教師にたいしてかなり(相対的にの意味であるが)自由に b, c, d が使えると言えそうである. 逆に2と3の場面では, 許可を得る事柄による相手への迷惑度, 動詞そのものの制約, また状況によっては相手に行動を促すことになる依頼表現とのかかわりからくるあいまいさを宿すなど, 1の教室場面と同じようには~タイムデスケドが使えないことを表している. 4の一般的な場面での見知らぬ人にたいしては c, d の間接的な許可を求める表現は向かないと言えそうである.

終わりに

以上, 許可を求める表現を~タイムデスケドを中心に提起, 前項 III の A, B, C, D にまとめた. このなかで, b の表現~タイムデスケド, イイデスカという表現が a の~テモイイデスカだけより表現的に好ましい場合がある一方, 逆にぶしつけで不適切となる場合があること, つまり, 間接的であればいいだけではないことも分かった(例「入りたいんですけど, いいですか」「ここに座りたいんですけど, いいですか」など). c の独立の~タイムデスケドの場合も, b と同じ理由で不適切となる場合があること, さらに, c, d はその意図の「あいまい性」から聞き手

への依頼，行動要求と解釈されて相手(聞き手)をわずらわせることがあり，a の～テモイデスカの直接的な言い方のほうが表現的に適切である場合もあることも分かった(例「窓開けてもいいですか」「たばこ吸ってもいいですか」). このほか，動詞によって表現上不適切となるものがあることも分かった. 特に～タイとの組み合わせでは「食べる」「帰る」などのように間接的・婉曲的な類語や～サセルを使うことで適切となるものがあるようだが，本稿の事例には2，3例しか出てこなかった. これは敬語との関わりで扱い直す必要があるだろう.

ここで扱ったもの以外にも許可を求める表現意図はさまざまな形式，つまり，さまざまな間接的な言い方で現われる. たとえば，座りたいときに言う「あのう，ここ，あいてますか」「どなたかいらっしゃいますか」は許可要求表現の一つであると言える. また，「たばこ，おきらいですか」も状況次第では許可を求める表現ともなるだろう. これらの表現についてはいずれ実例を調べてみたいと思う. さらに，～テモイデスカという許可要求表現形式が他の表現意図をもった間接表現として現われているのではないかと思われる例もあった. III の3の3)の「トイレ借りてもいいですか」の例がそうであるが，本稿で取り上げた限定された「場」ではこれ以外の典型的な例は見当たらなかった.

[本稿は外国人学生を話し手にした具体的な場と事例で許可要求の直接表現と間接表現をみようと試みたものである. 外国人学生である発話者の意図が表現形式を変えることでどう聞き手によって受け止められるか，に視点を置いてみた. 話しことばにおける表現意図と表現形式のズレ，話し手の意図と聞き手の解釈のズレなどは許可要求表現にかぎらず，ほとんどすべての表現に起こることである. もし，他の表現意図についてもこの方法を取り入れ，そこに現われる諸表現形式の使用上の条件を少しでも明らかにできるのであれば，学習者にたいする話しことばの実際的な表現指導にも役立つと思う. 方法論についてご教示いただければ幸いである.]

参考文献

1. 「Rules for Conversational Rituals in Japanese」 Haruo Aoki, Shigeko Okamoto 大修館 1988
2. 「話しことばの表現」 水谷修編 講座日本語の表現 [3] 筑摩書房 1983
3. 「日本語教育ハンドブック」 日本語教育学会編 大修館 1990
4. 「談話の研究と教育 II」 (森田良行, 北條淳子執筆) 国立国語研究所 1989
5. 「話しことばのコミュニケーション」 監修国立国語研究所 凡人社 1988
6. 「英語のソーシャルスキル」 鶴田庸子, ポール・ロシター, ティム・クルトン 大修館 1988
7. 「談話の研究と教育 I」 国立国語研究所 1983
8. 「談話の構造」 日向茂男, 日比谷潤子 日本語例文・問題シリーズ 16 荒竹出版 1988
9. 「現代日本語の構造」 南不二男 大修館 1986
10. 「外国人のための日本語会話ストラテジーとその教育」 畠 弘巳 「日本語学」 Vol. 7, 1988
11. 「日本人とアメリカ人の敬語行動」 井手祥子他 南雲堂 1986